

第3回学校運営協議会 議事録

日時：令和6年2月22日（木）15:30～17:00

場所：住吉高等学校 会議室

出席者

○学校運営協議委員

大塚耕司 委員長、森田英嗣 委員、森本哲弘 委員、篠原宏明 委員、山崎大義 委員

○学校側

中山（校長）、久堀（教頭）、田仲（事務長）稲木（首席）、内田（首席）、西本（国際文化科長）、大門（総合科学科長）、山城（教務部長）、三石（進路指導部長）、杉本（生活指導部長）、左（教育相談）、山田（総務部長 司会担当）、辻（記録担当）

1. 学校長挨拶

2. 今年度の本校の取組みについて

（1）本年度の学校経営計画について（中山校長）

・令和5年度学校経営計画及び学校評価

1. 学力向上と進路実現

各目標をおおむね達成できているが、生徒によるICTの活用と、時間外勤務時間の減少に関しては課題が残っている。

2. 国際・科学高校としての質的な深化

各目標を達成できている。

3. 地域で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成

担任と生徒間においては相談しやすい環境が作れている一方で、担任以外との関りが薄い。今後の課題としては担任以外との関りを増やす必要が挙げられる。

・令和6年度学校経営計画

新たな取り組みとして、「総合的な探究の時間」を両学科共通の内容で取り組む。

（2）総合科学科の取組みについて（大門総合科学科長）

SSH 第四期の承認に向けて両学科共通コンセプトのもとで活動を実施。以下、三つの課題を抱える

・G0 Beyond プロジェクト→外部との接続・強化。

・ユネスコ・プロジェクト→ノウハウの共有と、活動の拡大。

・校内横断プロジェクト→両学科での共同作業の推進。

（3）国際文化科の取組みについて（西本国際文化科長）

1年生は暗唱大会、2年生はディベート大会を実施し、ディベート大会に関しては他校からの見学の受け入れを行った。また、校外での活動としてLETS合同発表会にも参加し、司会と発表を務めた。結果としては3年連続で受賞。校内のみならず、校外においても様々な活動を実施できた一年。

(4) 国際部の取組みについて (中川国際部長)

コロナの影響によって去年までほとんどなかった海外との交流が多い1年だった。春には台湾から台中市私立立人高級中學から40名ほどの受け入れを、夏には韓国との相互訪問、冬にはニュージーランドから留学生の受け入れを実施した。

1年を通して活発に活動ができ、活動後においては活動に参加した生徒の多くが実践発表やその他の活動に積極的に参加するなどの良い変化が見られ、住高らしい雰囲気を作り出せた。一方、このような活動が増えるに伴って教員1人当たりの業務量が増加し、業務量の削減が課題。

(5) 進路指導部の取組みについて (三石進路指導部長)

第2学年において「労働」とは何かといった観点から広く職業に関する講演を実施した。生徒からも好意的な意見が多く、有意義な取り組みだったと言える。

今後もOBやOGなどとの繋がりを活用することで、実際に労働している人からの講演を実施し、住吉高校独自の取り組みとして強化していきたい。

(6) 生活指導部の取組みについて (杉本生活指導部長)

・遅刻指導

遅刻件数が増加。遅刻回数が3回の時点で遅刻者に指導を実施した。生徒の意識にも改善が見られたが、指導にあたる教員の時間的拘束が長いことが今後の課題として挙げられる。全体としては若干の歯止めとなったが、根本的な解決法として日ごろから遅刻をしないようにするといった各担任からの意識づけが引き続き必要なのではないかとといった点が今後の課題として挙げられる。

・挨拶マナーアップ計画

6割ほどの生徒が肯定的な解答をしており、部活内での空気感が良くなった等の好意的な意見が見られた。引き続き目標設定や評価のみならず、実現に向けての助言・働きかけを継続していく必要がある。また、教員に関しても数値的には改善傾向にあった。今後の課題としては教員側からの積極的な挨拶の推進が挙げられる。

・頭髪指導

「考えさせる指導」を目標に活動。今後の課題としては、見た目を重視した指導に陥らないようにする必要があることが挙げられる。

(7) 教育相談の取組みについて (左教育相談主担)

スクールカウンセラーに関して、時期によって利用者のばらつきがあり、相談したいときに相談したい生徒が利用しづらい状況にあった。また、カウンセリングに関して毎回5時間の枠を設けているが、授業との兼ね合いによって勤務時間を超過することが多く、今問題を解決する方法について模索することが求められる。今年度より新設した部署であるため、活動内容や位置づけを次年度へ向けて精査する必要がある。

3. 質疑・協議

・「各年度の教育計画の作成に当たって、教職員で話し合っている」といった項目の数値の向上を目標に掲げていたがその意図は。

→日々の業務の中でまとまった時間をとることが難しい。よって、今後の課題として研修を設けるなどして時間を設けたい。

・国際交流などの活動による生徒の変化は具体的にどのようなものがあるか。

→活動以後では、更に積極的に活動に取り組むようになった。また、活動に参加していない生徒に関しても、自らも積極的に活動に参加したいといった意欲がみられるようになった。

・遅刻を繰り返す生徒を支援に繋げる方法としては。

→実際に遅刻を繰り返す生徒の多くが悩みを抱えている。しかし、一方でそのような生徒に対する支援を実施するための人員や時間が足りておらず、有効な手立てをとれていない。

・英語検定合格者に関して目標設定人数が少ないのでは。

→2級が高校卒業程度の成績であるため、目標設定としては妥当である。

・共通テストと私立大学の受験内容の差違による、共通テスト受験の有無についてどのように取り組んでいるのか。

→大学受験、ひいては今後の人生において幅広い選択肢をとるためにも、早い段階から選択肢を狭めるのではなく、幅広く取り組むことを勧めたい。一方で、教員間での共通認識の形成には至っていない。

・探究活動に関して、外部接続をするうえで意識されていることは。

→生徒の持つ積極性を引き出すために、様々な活動や既卒生との関わりを持つことで、積極性の強化をめざす。

4. 校長謝辞

5. 令和6年度の学校運営協議会の開催予定について

第1回 令和6年6月20日（木）15時30分～17時

第2回 令和6年10月17日（木）15時30分～17時

第3回 令和7年2月13日（木）15時30分～17時